

# 一人一人が避難行動を 実践してみよう **地震・津波避難訓練週間**

期間中、都合の良い日に必ず1回は自主避難訓練をしましょう。

なお、新型コロナウイルス感染予防のため、例年、9月1日（防災の日）に実施している「地震・津波避難訓練」は中止します。

**期間** 9月1日(水)～7日(火)

**訓練対象者** 市内に居住または勤務している人

**想定内容** 日本海溝沿いでマグニチュード9.1の地震が発生。釜石では震度6弱の揺れを観測。地震発生から3分後に気象庁から大津波警報が発表された

**【津波到達予想時間を地震発生から15分後と想定】**

**訓練時の津波到達想定時間**

内閣府が公表した「日本海溝（三陸・日高沖）モデル」によると、震源は東日本大震災時のすべり分布よりも釜石に近く、東日本大震災時よりも津波が早く到達する可能性があります。

また、平成15年～16年に県が行った津波浸水想定では、釜石への津波影響開始時間が、早い所で15分～17分と想定されており、迅速な避難行動の目安として地震発生後「15分」と設定しました。

**訓練内容**

- ①個人や家族、職場の仲間とともに、その時いる場所ので大きな地震が発生したと想定して「身を守る」行動をしましょう
- ②自宅や職場、学校、幼稚園などから、近くの津波災害緊急避難場所や高台など、危険を回避できる場所への避難訓練をしましょう
- ③避難開始までの手順や緊急持ち出し物品などの確認をしましょう

- ・避難は徒歩避難が原則です
- ・マスク着用などの感染予防対策を徹底し、避難場所到着後は速やかに解散しましょう
- ・訓練用の緊急地震速報の警報音やサイレン音は鳴らしません

**お願い** 町内会や企業・団体などの皆さんは、訓練を行った日時、参加人員、訓練内容などを市防災危機管理課までお知らせください

問い合わせ 市防災危機管理課 ☎27-8441

## 市営住宅・復興住宅 入居者を募集します

**受付期間** 8月19日(木)～9月1日(水)9時～17時（土・日曜日を除く）

**申込方法** 入居要件の確認が必要です。まずはお問い合わせください

東日本大震災で被災してなくても、入居要件を満たす場合は全ての復興住宅に入居できるようになりました。ただし、震災で住宅を失った世帯などが優先されます。

◆**入居指定日** 10月1日(金)

※この日に入居しない場合でも、家賃はこの日から発生します

◆**その他** 申し込み多数の場合は、抽選となります

問い合わせ (一財)岩手県建築住宅センター沿岸支所  
大町1-4-7 大町復興住宅4号棟1階 ☎55-5742

住宅名	募集戸数
野田復興	3DK：1戸
上中島復興1号棟	1LDK：1戸
	2LDK：1戸
上中島復興2号棟	2LDK：1戸
大町復興1号棟	2LDK：1戸
大町復興2号棟	1LDK：1戸
只越復興5号棟	1LDK：1戸
箱崎白浜復興	1LDK：1戸
日向復興	3DK：3戸
大只越市営	2DK：1戸

## 募集継続 浄化槽設置費補助金制度をご活用ください

浄化槽の普及促進のため、一般住宅や店舗兼用住宅への設置費用の一部を補助します。

**補助対象区域** 公共下水道事業計画区域と唐丹集落排水処理区域を除いた市内全域。詳しくは市下水道課で確認できます

**補助金額** 設置費用の7割に相当する額。補助限度額は次のとおりです

5人槽	7人槽	10人槽
61万6,000円	77万1,000円	102万9,000円

補助の要件・申請方法は、広報かまいし5月15日号か市のホームページでご確認ください



市のホームページ

申し込み・問い合わせ 市下水道課 施設係 ☎22-1061

県立釜石病院からのお知らせ

## お産の休止を予定しています

県立釜石病院ではこれまで、県内4つの周産期医療圏のうち、気仙・釜石周産期医療圏の地域周産期母子医療センターである大船渡病院の協力病院として、大船渡病院からの応援医師1名により院内助産を含む正常分娩に対応してきました。

しかし、派遣元である大学の小児科医師の減少により、新生児の入院に対応する医師の派遣が困難となること、また、24時間体制で分娩関連の呼出しに対応している産科応援医師の働き方への配慮などから、大変ご不便をおかけしますが、令和3年10月から、当院での分娩を休止することを予定しています。

なお、限られた医療資源の中で、安全安心なお産を守るため、産婦人科の外来診療や妊産婦健診は継続するとともに、出産時の搬送の安全確保や産後ケアの充実などに努めていきますので、ご理解をお願い申し上げます。

妊産婦の方々のご不安なことなどをお聴きして、丁寧にご説明し対応して参りますので、当院スタッフに何なりとご相談ください。

岩手県立釜石病院

## 妊産婦の皆さんへの支援策を検討しています

本年3月、県立釜石病院の分娩の取り扱いが10月から休止されることが発表されました。このため、市は、大槌町と連携して県医療局に詳しい説明を求めるとともに、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを進めている中で、分娩の休止を受け入れることはできないことを訴えました。

また、医師の派遣元である岩手医科大学に地域の実情を説明し、医師の派遣を強く要望しました。これに対して、同大学の小川理事長からは「今回の要望は重く受け止めている。すぐに問題が解決されるということではないが、要望に沿った形で、住民の不安を取り除けるような体制を組んでいきたいので、当面の間辛抱していただきたい」とのお話を頂きました。

このことから市は、今回の休止の取り扱いはあくまでも一時的なものであると受け止めており、再開に向け、今後も県および関係機関に要望を継続していきます。

現在、市は県立釜石病院や大槌町と連携しながら、妊娠中の人や今後出産を考えている皆さんの不安を少しでも解消できるよう支援策を検討しています。

7月16日には、子育て中の女性の皆さんに参加いただき、今回の分娩休止に対する意見交換会を開催しました。参加者からは、陣痛が起きてからの移動への対応や、医師や助産師による相談体制など、多くのご意見を頂きました。これらの意見を参考に、できるだけ早く支援策の取りまとめを進めていきます。



釜石市・釜石市議会・大槌町・大槌町議会による岩手医科大学理事長への要望



女性の皆さんとの意見交換会の開催

問い合わせ 市健康推進課 地域医療連携推進室 ☎22-0179